

# 国指定重要文化財の民家における保存移築について

## Stydy on the removing and reconstruction for saving in folk houses of the important cultural property

平山 育男  
HIRAYAMA Ikuo

キーワード：移築、重要文化財  
Keywords : removing and reconstruction, important cultural property

### 1 はじめに

民家の移築についてはこれまで数々の側面について考察を試みてきた。ところで現在行われている「民家の移築」と言えば、昨年の紀要で扱ったいわゆる「移築」はほぼ皆無で、「保存移築」が一般的である。「移築」と「保存移築」では性格的に何がどのように異なるのであろうか。

本稿では、国指定重文における保存移築の実態を考察し、これまで考察した移築との違いについて比較を行うものである。なお、既往の研究では移築一般について前章で挙げた大森潤<sup>1)</sup>、李明善<sup>2)</sup>のものが挙げられるが、いずれも遺漏などがあり、数字の正確性には問題がある。

本章では、国指定重文民家について保存移築の様子を示し、その内容を明らかとし、全国指定重文農家に対する保存移築の割合を示す。次いで保存移築の各例について移築の距離、年代など、移築の諸相を明かした上で、それらが東京都神奈川県のと都府県および全国において見られた農家の移築と差異があるのか、考察を試みるものである。

### 2 国指定重文民家における保存移築の例

国指定重文に民家における保存移築の事例は、表 19 に示した 81 例を見ることができる。なお、この内 9 例は町家等に関するものであり、差し引き 72 例が農家に関するものとなる。また、2 例は 1 建物につき 2 回の保存移築を行っているが、内 1 例は町家、1 例は農家についてのものである。以上を整理すると国指定重文農家では 71 件の遺構に対して 72 例の保存移築を確認することができる。

都道府県別で見ると、農家において半数以上が保存移築を受けているのが岩手県（8 例中 6 例、75%）、福島県（6 例中 3 例、50%）、千葉県（4 例中 3 例、75%）、東京都（4 例中 2 例、50%）、神奈川県（11 例中 9 例、82%）、福井県（6 例中 3 例、50%）、岐阜県（10 例中 5 例、50%）、兵庫県（4 例中 2 例、50%）、香川県（5 例中 3 例、60%）、宮崎県（3 例中 2 例、67%）であり、県内に比較的規模の大きな保存移築民家を展示する博物館等の施設を有する都府県にその傾向が顕著に見られる。

### 3 国指定重文農家における保存移築の諸相

国指定重文民家における保存移築の実数は以上の通りであるが、保存移築の割合、「年代」、「距離」、「理由」、「期間」などの諸相について、東京都及び神奈川県、全国、国指定重文の移築事例と比較しながら考察をしてみたい。

#### 1) 保存移築の割合

表 1 に国指定重文民家の棟数、保存移築の棟数、国指定重文農家の棟数、保存移築農家の棟数について都道府県毎及び合計を挙げ、各々について割合を求めた。

これによれば全国では 343 棟の国指定重文民家があり、この内前述したように 81 例 79 棟が移築を受けた民家となり、343 棟に対する割合は 23% となる。また、国指定重文農家 260 棟に限ると、その内保存移築を受けた農家は 71 棟、260 棟に対する割合は 27% となる。

東京都及び神奈川県において移築を受けた農家の割合は 13%、全国農家での割合は 7%、更に国指定重文農家における移築の割合は 5% であったが、国指定重文民家、国指定重文農家における保存移築の割合はそれらに比べていずれも大きく、特徴的である。これらは、国指定重文民家の

現所有者が文化財民家の所有権を、例えば老朽住宅として放棄する場合、建物だけ、又は土地共の場合、いずれにしても、その場合、地元公共団体による買取り保存を勧告し、その経費に対し国の補助を配慮することとした。建物だけの場合は、建物の買取りでなく、移築費も当然含まれる。このように実情に応じた対策が配慮され<sup>3)</sup>

た結果と言えよう。

なお、参考までに国指定重文民家において移築及び保存移築を受けた全体の数を把握しておきたい。国指定重文民家において、移築を受けた民家は前述のように 16 棟、保存移築を受けた民家が 79 棟、更に移築と保存移築の両方を受けた民家は神奈川県所在の旧佐々木家住宅、岐阜県の田中家住宅、旧吉真家住宅、静岡県の旧植松家住宅、宮崎県の旧藤田家住宅の 5 棟が存在する。このため、国指定重文民家 343 棟中、移築もしくは保存移築を受けた民家の総数は 90 棟で、全体の 26% となる。更に、国指定重文農家に限れば、移築を受けた農家が 13 棟、保存移築を受けた農家が 71 棟、移築と保存移築の両方を受けた農家が上述の 5 棟となる。つまり、国指定重文農家 260 棟中、移築もしくは保存移築を受けた農家の総数は 79 棟で、その割合は 30% となる。

#### 2) 保存移築の行われた「年代」

保存移築の行われた年代はいずれも戦後のもので、機械的に 10 年毎に区切って見ると、昭和 30～39（1955～1964）年が 6 例、昭和 40～49（1965～74）年が 39 例、昭和 50～59（1975～1984）年が 28 例、昭和 60～平成 6（1985～1994）年が 4 例、平成 7～16（1995～2004）年が 3 例、以後が 1 例となっている。昭和 40（1965）年代になって保存移築が急激に増加し、昭和 50（1975）年代にかけて数多く実施されたことが分かる。ちなみに保存移築の行われた「年代」の平均は昭和 50（1975）年となる。これは前述したように、昭和 40（1965）年代以後に打ち出された国による補助金制度に依るものと言えよう。

ところで移築が実施された「年代」は 20 世紀前半までにほとんどが集中していた。具体的には、20 世紀前半までに東京都と神奈川県の場合、移築件数の 96%、全国では 97%、国指定重文民家では 94% が実施されていた。これに対して保存移築は逆に 100% が戦後である 20 世紀後半以後に実施されており、顕著な差異と言える。

#### 3) 保存移築の移動「距離」

保存移築の移動距離は、「保存移築前の所在地」と「保存移築

後の所在地」両者の直線距離を計測し、原則的に小数点以下を四捨五入し、「移動距離」の欄に示した。

その結果、国指定重文における保存移築民家全体の平均移動「距離」は42.9km、国指定重文農家に限っても45.9kmであった。

東京都と神奈川県全体の平均移動距離は4.4km、全国において海上輸送を除いた平均移動距離は5.3km、国指定重文民家では4.5km、国指定重文農家では4.7kmであったが、これらと保存移築の42.9kmには大きな差異が認められる。つまり、国指定重文の保存移築では、移築のおよそ10倍に近い移動「距離」がある。なお、国指定重文民家の保存移築81例中、11例が都道府県境を越えての移動で、この場合の平均移動「距離」は210.3kmと更に大きい。また、同一の都道府県内における保存移築の場合でも平均の移動「距離」は16.6kmで、移築の場合に比べ、3～4倍程度の移動「距離」となっている。

#### 4) 保存移築の「理由」

保存移築の「理由」は国指定重文の保存移築81例中77例で明らかとなり、「火事・災害」を理由とするものはなかった。また、愛知県の東松家住宅が区画整理、兵庫県箱木家と広島県の藤山家住宅がダム建設、岐阜県の旧若山家住宅の2回目保存移築は地盤沈下、佐賀県の川打家住宅が道路拡張を理由とする「社会的整備」を要因とするもの、鹿児島県の二階堂家が現状のまま保存、管理が困難となったという「内的要因」で、そしてこれらを除く71例、93%は寄贈、譲渡、譲受、買取など、「購入等」と見なせる要因であった。また、国指定重文農家に限れば、72例中67例で「理由」が明らかとなり、この内63例、94%が「購入等」とする要因であった。

なお、国指定重文民家の保存移築全体の理由において「購入等」に至る経緯を詳しく見ると、「新しい住宅の建築及び取り壊し」のためが34例、「維持管理が困難及び老朽化」が18例、ダム建設、ニュータウン建設など「社会的要因」のためが5例、「保存活用」のためが2例、「相続税」のためが1例、「関係各位の指導」のためが1例となっている。つまり、「購入等」とされたものでも、そこに至るまでの要因を考察すると、「新しい住宅の建築及び取り壊し」と「維持管理が困難及び老朽化」の理由が合わせると52例で、これは「理由」の判明する76例に対して68%を占めることとなる。また、国指定重文農家に限っても、「理由」の判明する67例中47例、70%で「新しい住宅の建築及び取り壊し」と「維持管理が困難及び老朽化」が占める。

東京都・神奈川県の例では「火事・災害」が39%、「購入等」が30%、「社会的整備」が21%で、全国では「火事・災害」が38%、「購入等」が50%、「社会的整備」が4%であった。また、国指定重文農家の移築では理由の判明する7例中3例が「火事・災害」、3例が「購入等」、1例が「内的要因」であった。これらと比較すると、「購入等」が94%を占める国指定重文農家の保存移築は特異な傾向であると言えよう。

#### 5) 保存移築までの「期間」

保存移築までの「期間」は、保存移築の「年代」から建築当初の建築年代を差し引いた数値を求めこれを保存移築までの「期間」として求めた。但し、2回の保存移築を受けたものに対しては、前回の保存移築からの年数とした。

81例全てにおいて保存移築までの「期間」が判明し、これらを平均すると全体では平均218年、1回目だけに限れば平均223年となる。また国指定重文農家の1回目に限れば平均226年となる。いずれの場合も200年を越える長期となる。

これは、東京都・神奈川県における移築まで「期間」が平均77年、全国における平均78年に対して、いずれも3倍に近い値であり、顕著な相違と言えよう。

## 4 国指定重文農家における保存移築の性格

国指定重文民家と国指定重文農家における保存移築の実際を見て、保存移築の割合、保存移築の「年代」、保存移築の移動「距離」、保存移築の「理由」、保存移築までの「期間」について考察を加えた。なお、国指定重文民家と国指定重文農家の間で顕著な差異は見られなかったため、以下では国指定重文民家の移築と保存移築の性格の差異を論じたい。

保存移築の割合は、国指定重文民家全体の30%で、極めて多数と見なせる。これは既に述べたように、行政からの働きかけも強く影響したものと言える。

保存移築の「年代」は、昭和40～50年代に67例、全体の83%が集中していた。これは20世紀前半までに90%以上が実施された移築の事例とは大きく異なるものである。また、これらの数字は、行政からの働きかけがあったとされる、昭和40(1965)年代直後に、保存移築が多数実施されたことを意味している。

保存移築の「距離」は、平均値が40kmを越えた。移築では4～5km程度であったことと比較すると、この差は大きい。移築では経済的な制約として近距離からの移動を想定することができたが、保存移築ではこの制約が働いてはいないことを意味しているだろう。

保存移築の理由は、9割を越えるものが「購入等」によるもので、更にその内70%に近い事例がそこに至る経緯として「新しい住宅の建築及び取り壊し」、「維持管理が困難及び老朽化」を挙げている。

また、保存移築までの「期間」は平均227年で、移築の3倍に近い数字であった。

以上をまとめると、保存移築は、割合、「年代」、「距離」、「理由」、「期間」のいずれにしても移築とは大きく異なる性格を有したものと見なすことができよう。国指定重文農家における保存移築は、行政の指導時期と「年代」を合わせて考えると昭和40(1965)年以後、20年間を中心に多くが実施された。保存移築では国指定重文建物の保存が第一義であるため、移動距離は移築のものとは異なり、長距離になることが多かった。保存移築までの「期間」は移築の3倍弱となる平均220年程、「理由」は維持管理に窮した末、寄贈などによって行われたものが数量的には多く、その割合は国指定重文農家の27%に及んだ。

## 5 小結

以上の考察より、国指定重文民家における保存移築とは、昭和40(1965)年以後、行政の誘導により成立したものと言えよう。そして保存移築は、20世紀前半まで盛んに行われた農家の移築とは「年代」、「距離」、「理由」、「期間」などの諸相とは全く異なる性格を有するものであることが明らかである。

## 注 記

- 1)大林潤：重要文化財における移築とその理由、建築の移築に関する研究（代表研究者：藤井恵介）2002（平成14）年度～2004（平成16）年度科学研究費補助金 基盤研究(B)(2)研究成果報告書、201～219頁、平成17(2005).3
- 2)李明善：歴史的建造物の保存方法としての移築＝民家を中心に建築の移築に関する研究（その9）、日本建築学会大会学術講演梗概集（関東）F-2、425～426頁、平成13(2001).9
- 3)財団法人文化財建造物保存技術協会：重要文化財箱木家住宅（千年家）保存修理工事報告書、4頁、昭和54(1979).1

表1 国指定重要文化財民家における保存移築の数と割合

県名	保存移築の棟数:A	重文民家の棟数:B	$A / B \times 100$	農家における保存移築棟数:C	重文民家農家の棟数:D	$C / D \times 100$
北海道	1	6	16.67	1	4	25.00
青森		5	0.00	0	3	0.00
岩手	7	9	77.78	6	8	75.00
宮城	2	5	40.00	2	5	40.00
秋田	1	7	14.29	1	7	14.29
山形	2	5	40.00	2	5	40.00
福島	3	6	50.00	3	6	50.00
茨城	1	8	12.50	1	8	12.50
栃木	1	5	20.00	1	5	20.00
群馬	3	7	42.86	1	5	20.00
埼玉	1	9	11.11	1	8	12.50
千葉	3	5	60.00	3	4	75.00
東京	2	4	50.00	2	4	50.00
神奈川	9	11	81.82	9	11	81.82
新潟		12	0.00	0	8	0.00
富山	1	9	11.11	1	7	14.29
石川	3	9	33.33	1	5	20.00
福井	3	6	50.00	3	6	50.00
山梨	1	7	14.29	1	6	16.67
長野	1	15	6.67	1	11	9.09
岐阜	5	15	33.33	5	10	50.00
静岡	1	6	16.67	1	6	16.67
愛知	1	5	20.00	0	3	0.00
三重		1	0.00	0	1	0.00
滋賀	1	5	20.00	1	3	33.33
京都	1	15	6.67	1	9	11.11
大阪	3	18	16.67	3	14	21.43
兵庫	2	5	40.00	2	4	50.00
奈良	2	22	9.09	1	11	9.09
和歌山	2	6	33.33	1	4	25.00
鳥取		4	0.00	0	3	0.00
島根		6	0.00	0	4	0.00
岡山	1	8	12.50	1	3	33.33
広島	2	12	16.67	2	7	28.57
山口		7	0.00	0	3	0.00
徳島	2	8	25.00	2	8	25.00
香川	3	5	60.00	3	5	60.00
愛媛	1	7	14.29	1	4	25.00
高知	1	4	25.00	1	3	33.33
福岡		7	0.00	0	5	0.00
佐賀	1	5	20.00	1	3	33.33
長崎		2	0.00	0	2	0.00
熊本	1	3	33.33	1	3	33.33
大分	1	4	25.00	1	4	25.00
宮崎	2	3	66.67	2	3	66.67
鹿児島	1	4	25.00	1	4	25.00
沖縄		6	0.00	0	5	0.00
合計	79	343	23.03	71	260	27.31

表2 国指定重要文化財民家における保存移築一覧

番号	都道府県	住宅名	種別	指定年代	建築年代	移築年	移築までの期間	旧所在地	移築場所	移築の「理由」	移築の「距離」[km]
1	北海道	旧三戸部家住宅	農家	昭和46	1971	明治5	1872	伊達市家原町80-1	伊達市梅本町61-2・開拓記念館	寄贈・	4
2	岩手県	旧藤野家住宅	農家	昭和53	1978	19世紀前半	昭和55	1980	県立博物館	譲渡・保存活用	69
3	岩手県	旧佐々木家住宅	農家	昭和53	1978	明治10	昭和55	1980	県立博物館	譲渡・保存活用	61
4	岩手県	旧菅野家住宅	農家	昭和40	1965	享保13	昭和47	1972	北上市博物館	譲り受け・新たに住居を建てる	9
5	岩手県	旧菊池家住宅	農家	昭和51	1976	18世紀中頃	昭和53	1978	土淵カントリーパーク	買収・居宅を新築	17
6	岩手県	旧後藤家住宅	農家	昭和40	1965	17世紀末	昭和42	1967	江刺市岩谷堂字向山1	譲渡・新たに住居を建てる	10
7	岩手県	旧小原家住宅	農家	昭和44	1969	18世紀中頃	昭和51	1976	東和町谷内7-121/旧小学校用地	譲渡・新居建築	0
8	宮城県	旧中村家住宅	商家	昭和46	1971	文久元	昭和48	1973	盛岡市公民館	寄贈・(寄贈後の)維持管理上	2
9	宮城県	旧中澤家住宅	農家	昭和49	1974	18世紀末	昭和51	1976	名取市倉田字山・公園緑地	譲渡・新居建設のため	2
10	宮城県	旧佐藤家住宅	農家	昭和46	1971	18世紀後半	昭和47	1972	角田市高倉字寺前・高蔵寺	寄贈・維持出来なくなった・住宅を新築	1
11	秋田県	旧黒澤家住宅	農家	平成元	1989	17世紀末	昭和62	1987	秋田市榎山・一ツ森公園	寄贈・(土地が)相続税の対象	21
12	山形県	旧矢作家住宅	農家	昭和44	1969	文政5	昭和43	1968	鶴岡市家中新町10-18/致道博物館	寄贈・	4
13	福島県	旧五十嵐家住宅	農家	昭和47	1972	享保3	昭和48	1973	町立只見山村民俗センター	譲渡・住宅を新築	3
14	福島県	旧馬場家住宅	農家	昭和52	1977	18世紀前半	昭和49	1974	会津民俗館	寄贈・解体新築	66
15	福島県	旧下田家住宅	農家	昭和46	1971	享保14	昭和44	1969	心清水八幡神社境内	寄贈・主屋建替	7
16	茨城県	旧飛田家住宅	農家	昭和43	1968	18世紀前半	昭和50	1975	古河市大字鴻巣字古城跡・古河総合公園	譲り受け・住居を建設	84
17	栃木県	旧羽石家住宅	農家	昭和43	1968	18世紀後半	昭和53	1978	茂木町大字牧野・県立婦人の家構内	買上・新居に引っ越し空屋	9
18	群馬県	旧戸部家住宅	農家	昭和45	1970	18世紀前半	昭和49	1974	水上町湯原64・教育委員会隣接地	買上・新居建設	16
19	群馬県	旧生方家住宅	商家	昭和45	1970	17世紀末	昭和48	1973	沼田市西倉内・沼田公園	譲渡・維持管理が困難	1
20	群馬県	旧茂木家住宅	町家	昭和45	1970	17世紀後半	昭和51	1976	富岡市宮崎329/宮崎公園	譲渡・維持管理が困難	1
21	埼玉県	旧新井家住宅	農家	昭和46	1971	延享2	昭和50	1975	長瀨町大字長瀨・郷土資料館	寄贈・老朽化が激しく・空き家になっていた	2
22	千葉県	旧花野井家住宅	農家	昭和44	1969	17世紀後半	昭和46	1971	野田市清水馬作902・清水公園	寄贈・現地で維持保存の意志がなし	14
23	千葉県	旧御子神家住宅	農家	昭和44	1969	安永8	昭和48	1973	成田市大字大竹字申内1441・県立房総風土記の丘	寄付・新住居建設	89
24	千葉県	旧尾形家住宅	農家	昭和44	1969	享保13	昭和47	1972	丸山町石堂301・石堂寺	寄贈・	1
25	東京都	旧宮崎家住宅	農家	昭和53	1978	19世紀初	昭和54	1979	青梅市駒木町1-684・郷土博物館	寄贈・管理が困難	5
26	東京都	旧永井家住宅	農家	昭和53	1978	17世紀末	昭和50	1975	町田市野津田・薬師池公園	寄贈・多摩ニュータウン建設	3
27	神奈川県	旧矢野家住宅	農家	昭和31	1956	18世紀前半	昭和35	1960	横浜市中区牧三の谷285・三溪園	譲渡・御母衣ダムの建設	186
28	神奈川県	旧伊藤家住宅	農家	昭和39	1964	17世紀末	昭和40	1965	川崎市生田9300・日本民家園	寄贈・取りこわして新たに住宅	5
29	神奈川県	旧北村家住宅	農家	昭和41	1966	貞享4	昭和43	1968	川崎市生田9300・日本民家園	寄贈・住宅新築	42
30	神奈川県	旧佐々木家住宅	農家	昭和42	1967	享保17	昭和42	1967	川崎市生田9300・日本民家園	寄贈・住宅新築	114
31	神奈川県	旧太田家住宅	農家	昭和43	1968	18世紀末	昭和45	1970	川崎市生田9300・日本民家園	寄贈・不便・近く新築	107
32	神奈川県	旧江向家住宅	農家	昭和44	1969	17世紀末	昭和43	1968	川崎市生田9300・日本民家園	寄贈・道路工事・取壊して他に住居	257
33	神奈川県	旧工藤家住宅	農家	昭和44	1969	18世紀中頃	昭和46	1971	川崎市生田9300・日本民家園	寄贈・住宅を新築	468
34	神奈川県	旧作田家住宅	農家	昭和45	1970	17世紀後半	昭和45	1970	川崎市生田9300・日本民家園	寄贈・新しい住宅	81
35	神奈川県	旧石井家住宅	農家	昭和44	1969	17世紀末	昭和45	1970	鎌倉市植木280・菟宝寺	寄贈・新居を建設	2
36	富山県	旧嶋家住宅	農家	昭和46	1971	18世紀後半	昭和47	1972	立山県風土記の丘	寄付・新築・保存と管理が困難	32
37	石川県	旧小倉家住宅	農家	昭和38	1963	19世紀前半	昭和39	1964	白峰村大字桑高子120	譲渡・火災による顕焼を防ぐため	2
38	石川県	旧松下家住宅	町家	昭和46	1971	19世紀中頃	昭和41	1966	金沢市湯涌町へ-19・江戸村	譲渡・	12
39	石川県	旧鱒波本陣	本陣	昭和46	1971	19世紀初	平成18	2006	金沢市湯涌町45・江戸村	施設の取得・変更維持や活用を考慮し	1
40	石川県	旧谷口家住宅	農家	昭和52	1977	19世紀前半	昭和42	1967	金沢市湯涌町へ-19・江戸村	譲渡	91
41	福井県	旧谷口家住宅	農家	昭和52	1977	19世紀前半	昭和53	1978	武生市余川町25-17-1・越前の里	寄贈・	4
42	福井県	旧橋本家住宅	農家	昭和44	1969	18世紀前半	昭和48	1973	大野市宝慶寺一字笠松7・宝慶寺境内	寄付・所有者も保持できなくなり	1

38	福井県	旧瓜生家住宅	農家	昭和44	1969	元禄12	1699	昭和50	1975	276	鯖江市水落町4-3-12	鯖江市水落町81-1・神明社	0	寄付・所有者は新住居に移り 寄付・所有者もこれ以上の維持管理が 出来ない状況になり
39	山梨県	旧平田家住宅	農家	平成元	1989	17世紀後半		平成04	1992	322	小淵沢町松向字杉の木平 774	小淵沢町7761-4・郷土資料館	3	寄付・所有者もこれ以上の維持管理が 出来ない状況になり
40	長野県	旧竹村家住宅	農家	昭和41	1966	18世紀前半		昭和43	1968	238	駒ヶ根市中沢	駒ヶ根市赤穂26	11	寄贈・
41	岐阜県	旧中家住宅	農家	昭和46	1971	18世紀中頃		昭和48	1973	223	高山市冬須982	高山市上岡本町2680・飛騨民俗村	3	寄贈・
42	岐阜県	旧田口家住宅	農家	昭和52	1977	文化6	1809	昭和45	1970	161	金山町卯ノ原(卯野原)	高山市上岡本町2680・飛騨民俗村	42	一
43	岐阜県	旧吉真家住宅	農家	昭和52	1977	18世紀前半		昭和46	1971	241	河合村角川	高山市上岡本町2680・飛騨民俗村	25	一
44	岐阜県	旧若山家住宅	農家	昭和52	1977	18世紀末		昭和34	1959	169	荘川村大字下滝	高山市岡本町123・飛騨民俗村	29	譲り受け・ダム建設により水没 地盤沈下
45	岐阜県	旧大戸家住宅	農家	昭和31	1956	天保4	1833	昭和38	1963	130	白川村大字御衣衣上洞229	下呂市森2326・下呂温泉合掌村	52	譲渡・電源開発工事等
46	静岡県	旧榎松家住宅	農家	昭和48	1973	18世紀前半		昭和49	1974	244	裾野市石脇328	裾野市千福松ヶ窪・中央公園	1	寄贈・改築されることになり
47	愛知県	旧東松家住宅	商家	昭和49	1974	明治34	1901	昭和40	1965	64	名古屋市中村区船入町	犬山市内山1・明治村	22	区画整理・
48	滋賀県	旧宮地家住宅	農家	昭和43	1968	宝暦4	1754	昭和45	1970	216	長浜市国友	安土町・歴史公園風土記の丘	32	譲受(220万円)・維持管理困難
49	京都府	旧園花家住宅	農家	昭和47	1972	17世紀末		昭和47	1972	282	瑞穂町賀志小字観音19	綾部町本宮町1・大本本部	10	譲り受け・取り壊されることになった
50	大阪府	旧泉家住宅	農家	昭和39	1964	17世紀後半		昭和35	1960	290	能勢町吉野	豊中市服部緑地1-2	22	寄付
51	大阪府	旧田家住宅	農家	昭和39	1964	18世紀中頃		昭和36	1961	211	榮村上ノ原	豊中市服部緑地1-2	360	一・取り壊し
52	大阪府	旧椎葉家住宅	農家	昭和48	1973	19世紀中頃		昭和43	1968	118	椎葉村高尾	豊中市服部緑地1-2	465	一
53	兵庫県	箱木家住宅	農家	昭和42	1967	室町時代	1453	昭和53	1978	525	神戸市北区山田町 御原字ケナカイチ23-1	神戸市北区山田町御原字道南14・ 隣接する地点	0	ダム建設
54	兵庫県	旧友井家住宅	農家	昭和49	1974	元禄10	1697	昭和52	1977	280	高取町阿草1302	山南町岩屋297・町立「さんなん荘」	7	譲り受け・新住宅を建てる
55	奈良県	旧白井家住宅	町家	昭和49	1974	18世紀初		昭和52	1977	267	高取町大字佐39	大和郡山田市矢田町545・大和民俗公園	24	寄贈・
56	奈良県	旧岩本家住宅	農家	昭和54	1979	19世紀前半		昭和55	1980	150	室生村大字佐632	大和郡山田市矢田町545・大和民俗公園	33	寄贈・新居へ移り、取り壊し
57	和歌山県	旧谷山家住宅	農家	昭和44	1969	寛延2	1749	昭和45	1970	221	海南市黒江1693	和歌山市岩瀬・紀伊風土記の丘	7	買い受け・住宅を新築
58	和歌山県	旧柳川家住宅	町家	昭和44	1969	文化4	1807	昭和45	1970	163	下津町塩津168	和歌山市岩橋・紀伊風土記の丘	12	買い受け・火災などの災害のおそれ
59	岡山県	旧森江家住宅	農家	昭和44	1969	17世紀末		昭和51	1976	286	富村大字大70	富村大字富西谷118・公民館隣接地	4	寄贈・老朽化
60	広島県	旧眞野家住宅	農家	昭和55	1980	17世紀末		昭和53	1978	288	世羅町戸張	三次市小田幸町字大平122-480	14	一
61	広島県	旧藤山家住宅	農家	昭和53	1978	18世紀中頃		平成11	1999	249	三良坂町灰塚1150	三良坂町灰塚字流田543-2・ ダム生活再建地「のぞみが丘」	2	ダム建設
62	徳島県	旧長岡家住宅	農家	昭和51	1976	享保20	1735	昭和54	1979	244	脇町字西大谷637	脇町大字猪尻字西上野34・ 上野八幡神社西側	3	譲り受け・新住宅を建てる
63	徳島県	旧小采家住宅	農家	昭和51	1976	天保年間		昭和58	1983	143	東祖谷山村字栗枝渡13	東祖谷山村菅生30・ 村立青少年旅行センター	6	買上・維持困難
64	香川県	旧下木家住宅	農家	昭和57	1982	安永10	1781	昭和51	1976	195	一字村木地屋39	高松市屋島中町91・四国村	45	譲り受け・撤去の予定
65	香川県	旧河野家住宅	農家	昭和57	1982	18世紀中頃		昭和55	1980	230	小田町大字上川字中畦	高松市屋島中町91・四国村	139	寄贈・維持管理がかなり難しい
66	香川県	旧恵利家住宅	農家	昭和46	1971	17世紀末		昭和45	1970	280	大川町田面字新名2565	大川町田面字碎石2948-7・ ダム東側→みろく自然公園	3	寄贈・老朽化による建替
67	愛媛県	旧山中家住宅	農家	昭和45	1970	17世紀末		昭和52	1977	287	別子山村20	美川村大字黒岩二番耕地722・ 県立岩隠文化の里	52	譲渡・関係各位の指導
68	高知県	旧竹内家住宅	農家	昭和47	1972	18世紀後半		昭和49	1974	204	大正町中津川森ヶ内441	大正町中津川森ヶ内1311-2・ 熊野神社向かい	0	譲渡・家を改築
69	佐賀県	旧川打家住宅	農家	昭和49	1974	正徳3~ 享保14	1713 ~29	平成11	1999	275	多久市西多久町大字 板屋6300	多久市西多久町大字板屋6200-1	1	道路拡張・買取
70	熊本県	旧境家住宅	農家	昭和48	1973	文政13	1830	昭和52	1977	147	玉東町大字原倉65	菊水町大字瀬川字清水原441-1	9	買取・新居建設
71	大分県	旧矢羽田家住宅	農家	昭和57	1982	18世紀後半		昭和60	1985	215	大山町大字東大山4083	大山町大字西大山3603・ 町立奈岐センター	4	寄付・居宅の改築
72	宮崎県	旧黒木家住宅	農家	昭和48	1973	天保6	1835	昭和50	1975	140	高原町大字牟田字蔵川16480	宮崎市神宮町485・県総合博物館	42	譲り受け・現地で保存が不可能
73	宮崎県	旧藤田家住宅	農家	昭和48	1973	天明7	1787	昭和53	1978	191	五ヶ瀬町三ヶ所953	宮崎市神宮町485・県総合博物館	82	一・管理に支障
74	鹿児島県	旧二階堂家住宅	農家	昭和50	1975	19世紀中頃		昭和62	1987	137	高山町大字新富字 神ノ市55595	敷地内	0.03	現状のまま保存、管理が困難となり

平均 42.9

平均 221.8